



はちもり

八峰町立八森小学校

目指す子ども像

- ①よさを伸ばし合う子ども
- ②つながりを大切にする子ども
- ③自らとふるさとを拓く子ども

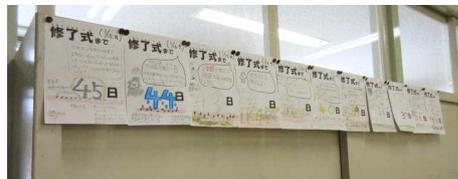


校訓：海のように 波のように 岩のように

令和6年2月2日(金) 第36号 文責：安部 晃幸



最上級生となる自覚をもって



シリーズ形式で、メッセージ入りです。メツ

まだ2月に入ったばかりですが、今週は比較的穏やかな天候で、春の足音が遠くからわずかながら聞こえてきそうな感じです。

今月29日(木)には、「6年生ありがとう集会」が行われます。これまで八森小のリーダーとして全校を引っ張ってくれた6年生への感謝の気持ちを込めて、5年生を中心に準備を進めています。

その5年生の教室には、修了式までのカウントダウンカレンダー(5年生が作成したもの)が貼られています。毎日1枚ずつ増えていくカレンダーを見ながら、最上級生になるという自覚が育まれていることでしょう。



1月30日(火)、地震と火災が発生したことを想定した避難訓練を実施しました。今回の訓練は、積雪時の避難口と避難経路を理解することがねらいの一つでした。

子どもたちは、「お・か・し・も・は」(おさない・かけない・しゃべらない・もどらない・はなれない)を意識して、整然と避難をすることができました。訓練の反省会では、校長から次のようなことを話しました。

1月1日に起きた能登半島地震はまだみなさんの記憶に新しいと思いますが、この地震では、倒れた家の下敷きや火事によって亡くなった人がたくさんいました。また、1ヶ月過ぎた今も、家が壊れ、避難所生活をしている人がたくさんいます。

今回は、学校で地震が起きたという想定で、みんなで集団行動することで、命を守る行動がとれましたが、学校にいるときに地震が発生する確率はわずか10%程度だと言われています。

もし休日に1人で屋外にいるとき地震があったらどうしますか。どう身を守りますか。どのように帰宅しますか。途中、川や海はありませんか。橋は渡れますか。心配して待っている家族にどのように連絡を取りますか。

このようなことを普段からイメージして、災害に備えておくことが自分や家族、友達の命を守ることに繋がると思います。

ぜひ、ご家庭でもいざというときの避難の仕方等について、話し合っていたきたいと思います。



響ぶら きん 冴え しみた自1
いてウ雪まぐんえ風み分月
ににがましぐん渡を受揚た29
いま元ド積したとる受ました日
まし気ドにもった。上った。っ
ななに、久た。って。っ
声な久た。って。っ
ががしグ いぐは 楽



今週の一枚

1月29日、太陽が顔をのぞかせ、穏やかだった。一年生がグラウンドに出て、

授業の様子から



【1年】算数

大きなかずのたし算やひき算に取り組んでいます。答えの正否だけでなく、答えを導き出した過程を説明し、お互いに学び合っています。



【2年】算数

身の回りのどこに数字が使われているかを調べ、ノートの裏表紙に書かれてある数字に着目して、何を表しているのか考えています。



【3年】体育

大谷翔平選手のグローブを使って、ボール投げ運動をしています。うまくボールをキャッチするため、お互いにアドバイスをしています。



【4年】体育

ボールを上に向けて、体を1回転させた後、キャッチする運動です。動作の中で体のバランスを保つのは、やはり難しいようです。



【5年】算数

割合を表すグラフ（円グラフ・帯グラフ）の特徴とそれらの使い方を理解し、分かりやすく表すための工夫について考えています。



【6年】算数

比例と反比例の学習を振り返り、中学校でも再度学習することを全体で確認してから、練習問題に取り組んでいます。

つばき

動物の「命」と向き合う



動物への親しみをもち、命の貴さを実感するためには、実物からの学びも重要です。時には、飼育動物の「死」と向き合わなければならぬこともあるでしょう。しかし、その命に寄り添い、見守るといふ姿勢が、自他の命を愛護しようとする気持ちをお互いに育むことにつながるのではないのでしょうか。

*近年は、動物由来感染症等で学校で動物を簡単に飼育できない状況にあることは承知の上で、勝手ながら思ったことを書かせていただきました。

14年を共に過ごした愛犬が、昨年12月末に亡くなりました。最後まで苦しんで亡くなっただけに、亡くなったときは、悲しみよりも、やっと苦しみから解放させることができたと安堵感が勝っていたような気がしますが。逆に、居なくなってしまう日は追うごとに悲しみが大きくなり、辛い日が続きました。ふり返ってみると、幼い時分から様々な動物に囲まれて過ごしました。犬、猫はもちろん、様々な小動物や昆虫などを飼っていただけでなく、外に出ると、家の向かいには牛舎があり、他の家で飼われている犬や猫、ヤギなどと触れ合う機会がありました。おそらく、私たちの年代の人たちはほとんどそうだったのではないのでしょうか。

人間以外の種と交流をもつことは、昔の学校教育の中においても顕著だったように思います。

私自身の経験では、学年や学級で、鶏やウサギ、文鳥やメダカ、金魚、スズムシ、カイコなど（ある学校では犬も）、様々な動物が飼育されていました。

ここで大切なのは、ただ飼われているのではなく、飼育する子どもたちに役割が与えられ、教育活動が営まれていたということです。ねらいのある動物飼育は、社会性がより発達するなどの教育的効果が得られるという研究結果もあります。

デジタル化が進み、実物を見なくてもその容姿や鳴き声等を知ることができるとは、子どもが生き物への親しみをもち、命の貴さを